

2021年3月21日(日)に開催された地域防災セミナーの概要を報告いたします。

セミナータイトル「愛するペットたちの防災の備え」～路頭に迷わないために～

講師 人と動物の防災を考える市民ネットワーク

NPO法人 アナイス 理事長 平井 潤子 氏

### 【講演の要点】

昨今、災害経験を通して、ペットを守るだけでなく、人の安全対策や地域環境保全に配慮した、ペット避難対策の重要性が問われるようになりました。また、前提としてウィズコロナの時代に配慮したペット防災の備え、対応が求められるようになりました。ペット飼育者のみなさま、ぜひ、愛するペットのためにも日頃から災害への準備をしてまいりましょう。

### 1)日頃のペット防災の備え

まず家族が住む場所を見直し、動物がいる場所も見直しましょう。留守をした時の飼育場所は安全ですか。小さな子供や高齢者にとって安全な場所はペットにとっても安全な場所といえます。

#### 備えておく「こと」

家具の転倒防止  
窓ガラス・家具ガラスの飛散防止  
落下物を減らす  
ペットのしつけ  
(大勢の人や動物がいても落ち着いていられるように)  
ハウストレーニング  
迷い子札やマイクロチップの装着  
定期的な健康診断  
ワクチン接種 ノミ・ダニ予防  
写真証明(この子はうちの子)  
犬の散歩仲間との地域コミュニケーション

#### 備えておく「もの」

フードや水の買い置き  
(特にウェットフード、療法食のストック)  
薬や飼育用品  
排泄物処理袋  
ケージ  
雨除けビニールシート  
リードや首輪  
キャリーバッグなど。



### 2)避難所のペット受け入れ

棲み分け動線の分離をおこなうこと。子供などへの動物アレルギーへの配慮をすること。ペット情報掲示板の設置。紙媒体による広報配布物の用意もしたほうがよい。世田谷区では避難所にペット同行した場合には飼い主の人たちが共同で飼育をすることが想定されています。ペット飼育エリア(主に校庭)運営がスムーズにスタートできるよう、できれば、あらかじめスターターキットを用意しておくとうよいでしょう。

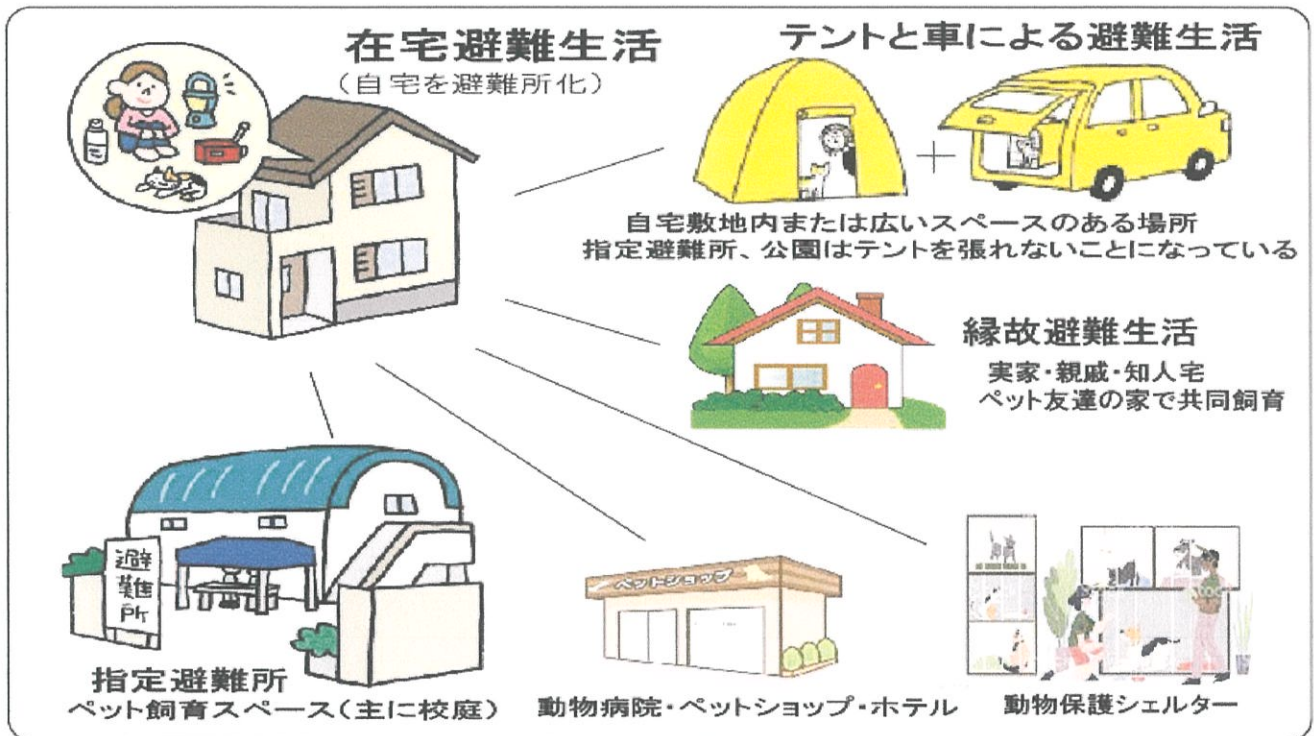
※スターターキット

避難所に準備するとよいとお勧めのアナイス提案の避難所グッズです。飼い主さんたちが自主運営するのに役に立つ飼育ルールマニュアルとペット避難所立ち上げの資材等をセットにしたものです。



### 3)在宅避難・分散避難のすすめ

避難所に行くことがすべてではありません。時に応じ選択・工夫したいものです。建物が安全か確認したあとで自宅を避難所化し情報・物資は避難所で受け取ることもできます。人と動物が共に避難し飼い主同士協力しあって飼育するのもよいでしょう。人は避難所に避難し動物は自宅等で飼育するのもやむをえない場合があるかと思えます。



### 4)結びとして

ペットは人間が飼育し一緒にいないとさまざまな問題を起こします。周りに様々な被害をもたらします。壊れた窓から入って糞尿を撒き散らします。感染症や狂犬病も発生しやすくなります。子犬や子猫は急激に増えます。ペットを家に残す場合は家族がこまめに世話をする必要があります。ペット防災は地域を守り、公衆衛生も守ることにもつながります。ぜひ、災害に備える飼い主力を高めていってください。家族の一員である大切なペットと家族全員が無事に再会し、一緒に災害を乗り越えていきましょう。

#### ご参加いただいた方々の感想の一部をご紹介します。

- ペット避難というより人の防災と一緒に考えるべきということがよくわかりました。犬は散歩などでネットワークができるのでいいですね。うちは猫を飼っているので猫コミュニティができたらいいなと思っています。(50代女性)
- 行政だけに頼らず飼い主力を高めることが大切という講師のお話はとても勉強になりました。(30代男性)
- ペットの防災に対応することが人間の生活環境を守ることに繋がるという視点の重要性が理解できました(40代男性)

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見ることができます。